

日吉台地下壕保存の会

会報

第23号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL.045-562-1282

(年会費)一口千円で、一口以上

郵便振込(口座番号)横浜2-62997

(加入者名)日吉台地下壕保存の会

1993年(平成5年)5月3日

調査結果をまとめた冊子「日吉台地下壕」、表紙の写真(はなび大キヤンパス内に残る礎石入り口跡)



日吉台地下壕

調査大綱に照準をきき出して日吉台壕調査員司令部のあつちを調査した。日吉台壕の調査は、(一)壕の調査(二)壕の調査(三)壕の調査(四)壕の調査(五)壕の調査(六)壕の調査(七)壕の調査(八)壕の調査(九)壕の調査(十)壕の調査(十一)壕の調査(十二)壕の調査(十三)壕の調査(十四)壕の調査(十五)壕の調査(十六)壕の調査(十七)壕の調査(十八)壕の調査(十九)壕の調査(二十)壕の調査(二十一)壕の調査(二十二)壕の調査(二十三)壕の調査(二十四)壕の調査(二十五)壕の調査(二十六)壕の調査(二十七)壕の調査(二十八)壕の調査(二十九)壕の調査(三十)壕の調査(三十一)壕の調査(三十二)壕の調査(三十三)壕の調査(三十四)壕の調査(三十五)壕の調査(三十六)壕の調査(三十七)壕の調査(三十八)壕の調査(三十九)壕の調査(四十)壕の調査(四十一)壕の調査(四十二)壕の調査(四十三)壕の調査(四十四)壕の調査(四十五)壕の調査(四十六)壕の調査(四十七)壕の調査(四十八)壕の調査(四十九)壕の調査(五十)壕の調査(五十一)壕の調査(五十二)壕の調査(五十三)壕の調査(五十四)壕の調査(五十五)壕の調査(五十六)壕の調査(五十七)壕の調査(五十八)壕の調査(五十九)壕の調査(六十)壕の調査(六十一)壕の調査(六十二)壕の調査(六十三)壕の調査(六十四)壕の調査(六十五)壕の調査(六十六)壕の調査(六十七)壕の調査(六十八)壕の調査(六十九)壕の調査(七十)壕の調査(七十一)壕の調査(七十二)壕の調査(七十三)壕の調査(七十四)壕の調査(七十五)壕の調査(七十六)壕の調査(七十七)壕の調査(七十八)壕の調査(七十九)壕の調査(八十)壕の調査(八十一)壕の調査(八十二)壕の調査(八十三)壕の調査(八十四)壕の調査(八十五)壕の調査(八十六)壕の調査(八十七)壕の調査(八十八)壕の調査(八十九)壕の調査(九十)壕の調査(九十一)壕の調査(九十二)壕の調査(九十三)壕の調査(九十四)壕の調査(九十五)壕の調査(九十六)壕の調査(九十七)壕の調査(九十八)壕の調査(九十九)壕の調査(百)

連合艦隊司令部ほか
旧海軍極秘地下施設

日吉台地下壕

日吉台地下壕保存の会

生かせハマに眠る戦史

最後の連合艦隊司令部を調査

公開求め

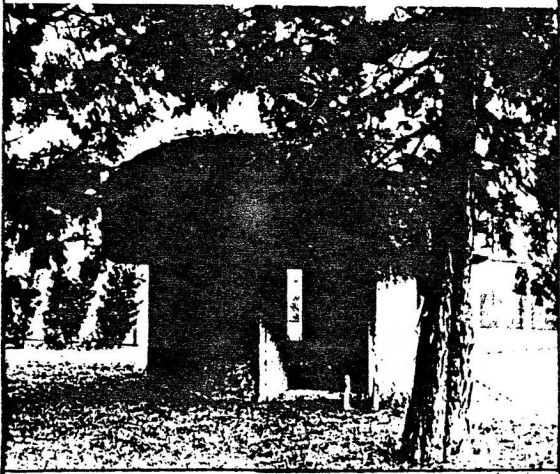
冊子発行

保存会

調査大綱に照準をきき出して日吉台壕調査員司令部のあつちを調査した。日吉台壕の調査は、(一)壕の調査(二)壕の調査(三)壕の調査(四)壕の調査(五)壕の調査(六)壕の調査(七)壕の調査(八)壕の調査(九)壕の調査(十)壕の調査(十一)壕の調査(十二)壕の調査(十三)壕の調査(十四)壕の調査(十五)壕の調査(十六)壕の調査(十七)壕の調査(十八)壕の調査(十九)壕の調査(二十)壕の調査(二十一)壕の調査(二十二)壕の調査(二十三)壕の調査(二十四)壕の調査(二十五)壕の調査(二十六)壕の調査(二十七)壕の調査(二十八)壕の調査(二十九)壕の調査(三十)壕の調査(三十一)壕の調査(三十二)壕の調査(三十三)壕の調査(三十四)壕の調査(三十五)壕の調査(三十六)壕の調査(三十七)壕の調査(三十八)壕の調査(三十九)壕の調査(四十)壕の調査(四十一)壕の調査(四十二)壕の調査(四十三)壕の調査(四十四)壕の調査(四十五)壕の調査(四十六)壕の調査(四十七)壕の調査(四十八)壕の調査(四十九)壕の調査(五十)壕の調査(五十一)壕の調査(五十二)壕の調査(五十三)壕の調査(五十四)壕の調査(五十五)壕の調査(五十六)壕の調査(五十七)壕の調査(五十八)壕の調査(五十九)壕の調査(六十)壕の調査(六十一)壕の調査(六十二)壕の調査(六十三)壕の調査(六十四)壕の調査(六十五)壕の調査(六十六)壕の調査(六十七)壕の調査(六十八)壕の調査(六十九)壕の調査(七十)壕の調査(七十一)壕の調査(七十二)壕の調査(七十三)壕の調査(七十四)壕の調査(七十五)壕の調査(七十六)壕の調査(七十七)壕の調査(七十八)壕の調査(七十九)壕の調査(八十)壕の調査(八十一)壕の調査(八十二)壕の調査(八十三)壕の調査(八十四)壕の調査(八十五)壕の調査(八十六)壕の調査(八十七)壕の調査(八十八)壕の調査(八十九)壕の調査(九十)壕の調査(九十一)壕の調査(九十二)壕の調査(九十三)壕の調査(九十四)壕の調査(九十五)壕の調査(九十六)壕の調査(九十七)壕の調査(九十八)壕の調査(九十九)壕の調査(百)

調査大綱に照準をきき出して日吉台壕調査員司令部のあつちを調査した。日吉台壕の調査は、(一)壕の調査(二)壕の調査(三)壕の調査(四)壕の調査(五)壕の調査(六)壕の調査(七)壕の調査(八)壕の調査(九)壕の調査(十)壕の調査(十一)壕の調査(十二)壕の調査(十三)壕の調査(十四)壕の調査(十五)壕の調査(十六)壕の調査(十七)壕の調査(十八)壕の調査(十九)壕の調査(二十)壕の調査(二十一)壕の調査(二十二)壕の調査(二十三)壕の調査(二十四)壕の調査(二十五)壕の調査(二十六)壕の調査(二十七)壕の調査(二十八)壕の調査(二十九)壕の調査(三十)壕の調査(三十一)壕の調査(三十二)壕の調査(三十三)壕の調査(三十四)壕の調査(三十五)壕の調査(三十六)壕の調査(三十七)壕の調査(三十八)壕の調査(三十九)壕の調査(四十)壕の調査(四十一)壕の調査(四十二)壕の調査(四十三)壕の調査(四十四)壕の調査(四十五)壕の調査(四十六)壕の調査(四十七)壕の調査(四十八)壕の調査(四十九)壕の調査(五十)壕の調査(五十一)壕の調査(五十二)壕の調査(五十三)壕の調査(五十四)壕の調査(五十五)壕の調査(五十六)壕の調査(五十七)壕の調査(五十八)壕の調査(五十九)壕の調査(六十)壕の調査(六十一)壕の調査(六十二)壕の調査(六十三)壕の調査(六十四)壕の調査(六十五)壕の調査(六十六)壕の調査(六十七)壕の調査(六十八)壕の調査(六十九)壕の調査(七十)壕の調査(七十一)壕の調査(七十二)壕の調査(七十三)壕の調査(七十四)壕の調査(七十五)壕の調査(七十六)壕の調査(七十七)壕の調査(七十八)壕の調査(七十九)壕の調査(八十)壕の調査(八十一)壕の調査(八十二)壕の調査(八十三)壕の調査(八十四)壕の調査(八十五)壕の調査(八十六)壕の調査(八十七)壕の調査(八十八)壕の調査(八十九)壕の調査(九十)壕の調査(九十一)壕の調査(九十二)壕の調査(九十三)壕の調査(九十四)壕の調査(九十五)壕の調査(九十六)壕の調査(九十七)壕の調査(九十八)壕の調査(九十九)壕の調査(百)

ようやく出来上がった
パンフレットと
神奈川新聞の紹介記事



1992年夏 分担執筆
小園、寺田、加賀谷補筆訂正
1993年4月17日発行

目次	ページ
第5回総会開催される	2
三つの重点	2
総会資料	2、3、4、5、6
総会を終えて	3

パネルディスカッション 「カンボジアと日本の 国際貢献をめぐる」	4
カンボジア雑感	7
お知らせ	8

第五回総会

開催される

さる四月一七日、慶大藤山記念大会議室において、第五回総会が開催された。議事は滞りなく進行し、別欄記載の通り可決された。ご一読ください。

ついで行なわれたパネルディスカッションは参加者一同真剣に耳を傾けた。参加者が少なかったことが惜しまれる。

二つの重点

鮫島 重俊

地下壕保存の会もそろそろ運営上の転換期にさしかかって来ている。

会員数を拡大するという目標も或程度達成したし、他の市民組織と連帯するという目的も徐々に成し遂げて来ている。

1992年度活動報告

会結成から満4年が過ぎ、第5回総会を迎えました。この間、世界情勢は激動し、世界各地で紛争が多発し、日本もバブルが崩壊し、これから先どうなるか不透明な時代となっています。また、日本の自衛隊がついにカンボジアに出兵しました。

1992年度も、私たちは、様々な活動をして参りました。会員の数も増え、現在500名を突破しました。会報は、第17号から第22号まで6回、順調に発行することが出来ました。会員の方々から地下壕見学会の感想文などが沢山寄せられました。運営委員会は1回、幹事会は9回それぞれ開催され、保存の会の核として活動してきました。

保存の会の具体的活動として全会員を対象とした行事としては、映画「戦争と青春」の上映、「松代大本営」の見学会、「日吉台地下壕」の見学会などを実施したほか、川崎市中原平和教育学級記録編集委員会・川崎市中原平和人権尊重学級企画委員会と私たちの日吉台地下壕保存の会の3者で「平和のための戦争展実行委員会」を組織して、「私の街から戦争が見える」というテーマで戦争展を行いました。これは川崎市教育委員会の共催、川崎市の後援を得て、成功裡に終わりました。

各種団体の日吉台地下壕の見学会は、元連合艦隊司令部通信隊の下士官・兵士の会、慶應大学白井ゼミの学生たち、神奈川県高等学校教科研究会社会科部会の先生方、自治労横浜支部、「平和のための戦争展」のイベント、部落解放同盟の人権啓発研究集会、中原平和人権尊重学級、来日韓国学生たち、追浜高校地学部先生と生徒、などの団体からの申込があり、全部で9回行いました。日吉台地下壕の存在はかなり広く世間に浸透して参りました。一刻も早く地下壕を整備保存し、多くの人々が見学できるようにして欲しいという声が多く寄せられています。

マスコミ関係では、例年同様この1年間も、新聞・テレビでしばしば取り上げられました。

調査活動では、蟹ヶ谷の地下壕を2回調査しました。また、聞き取り調査も何回か行い、新しい事実も出てきました。

地下壕の保存については、昨年4月14日に日吉台地下壕保存の会をはじめ9団体の参加による「日吉台地下壕問題調査団」が組織され、地下壕の見学・調査を行いました。その足で県庁と市庁を訪れ、県知事と横浜市長に地下壕の整備保存の要請書を渡しました。返事をくれることになっていましたが、未だに何の音沙汰もありません。今年度は、市や県当局、情勢によっては慶應義塾当局にたいして、地下壕の整備保存についての働きかけを、強めていく必要があります。

これで1992年度の活動報告案の説明を終わります。

1992年度決算報告書

(単位は円)

	1991年度決算 1991.4.3-1992.3.31	1992年度予算 1992.4.1-1993.3.31	1992年度決算 1992.4.1-1993.3.31
収入の部			
会費	480500	350000	455500
カンパ	50845	0	30400
利息	0	0	12516
事業益	115840	0	18100
繰越金	410439	704204	704204
合計	1057624	1054204	1220720
支出の部			
会議費	5200	30000	6058
事務費	47919	80000	25808
印刷費	72996	650000	64057
通信費	139264	160000	175577
資料費	0	20000	47000
謝礼	54361	80000	18318
予備費	33680	34204	46310
合計	353420	1054204	383128
差引残高計	704204	0	837592

以上の通り報告します。

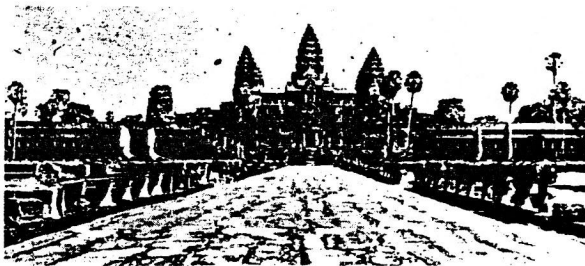
日吉台地下壕保存の会事務局長 寺田貞治 印

1993年4月3日

この報告により収支を監査したところ適正に処理されていることを認めます。

会計監査 森山高行 印

会計監査 天野喬子 印



今何が重要かという点を考えてみるに、第一に会員がそれぞれの持場で創意性が発揮できる組織体にする事である。寺田事務局長以下の努力で行政の中にもがっちりとかさびを打ち込んだのだが、それを支える手足が弱体なのである。事務局長の負担になっ

ている多くの仕事を会員に分散し、会員一人一人の協力を得る事である。第二に、会の次の目標を具体的に示す事である。船がどちらの方向に進んで行くかを明らかにする事である。第三に学生、塾教職員、塾当局への対応の方法を模索すべきである。塚が塾内にあることがそれを要求する。

寺田事務局長を支える仕事に取り組みましょう。

松山△△△を最終ゴールとして

岡上 そう

今回の総会を終えての感想は、まず参加者の人数が大変



少なかつたことです。年一回の総会なのですから、何とか都合をつけて参加してほしいものです。わざわざカンボジアからきたサンピアラ氏等にパネルディスカッションを、やっていたいただいたのに、少人数の参加者にしか伝えられなかったのが残念な気がしました。もう一つは、いまひとつ手順が良くなかつたのではないかと思います。ビデオ上映を行なつてからパネルディスカッション等の事をしましたが、これは実際に終えてから、順序を逆にした方がまとまつたのではないかと思います。まあ順序はどうであれ、まずは、参加してみる事が大切だと思います。幹事会が主体の会ではなく、皆さんで協力して営んでゆく会であるべきではないでしょうか。次回是非来ていただきたいと思ひます。

1993年度活動方針 ~~(案)~~

保存の会が結成されて5年目を迎えました。流動的な世界情勢の中で、日本はカンボジアに派兵したばかりでなくモザンビークにも派兵が決定し、新たな戦前状況が作られようとしています。昨年から今年にかけて、日本は大きく転換しつつありますが、果して日本の歩みはこれでよいのでしょうか。従軍慰安婦の問題、中国人・朝鮮人の強制連行・強制労働の問題など、まだ第2次大戦の後始末さえしていないのにと、疑問を感じざるを得ません。日本の国際貢献のあり方にもいろいろ問題があります。

太平洋戦争に対して、厳しく反省し、2度と再び過ちを繰り返してはなりません。そのためには、太平洋戦争を常に検証し、戦争というものの本質と実相を正しく伝えて行かなければなりません。

私たちは、92年度に引続き調査を活発に行い、地下壕の整備と保存、戦争と平和を考える場として公開する運動をすすめていく必要があります。

今後の具体的活動としては、

1. 調査活動を活発に行う。
2. 見学会・講演会・戦争展など様々な催しを活発に行う。
3. 会報を発行し、パンフレットを作り、市民活動を活発にして会員を増やし、活動の輪を広げる。
4. 全国の関係諸団体との交流を深め、情報交換を活発にする。
5. 市や県当局、情勢によっては慶應義塾当局にも働きかけ、保存の要請または陳情、請願、署名運動などを行う。

今年度は、保存の目処をつけるべく、市や県当局に強く働きかけをしていきたいと思っております。私たちの願いを達成させるためには、多くの人々の理解と支援が必要です。目的達成まで、今年度も宜しく御支援・御協力をお願い致します。

これで1993年度の運動方針案の説明を終わります。

パネルデスカッション
「カンボジアと日本の

国際貢献をめぐる」

休憩後、机を口の字型にならべかえ、行なった。ゲストはチャ・サンピアラ氏（在日カンボジア人）と本田徹氏（国際保健協力市民の会代表）ピースポートの方々も数人参加された。

サンピアラ氏は一九六三年生れ、一九八〇年に兄を頼って来日、大和市の難民キャンプで三ヶ月日本語を勉強し、川崎市西生田中学、高津高校に進学、東京理科大学電気工学科を今年卒業した。

村人同志の虐殺でおぼと祖母が殺され、強制移住から村に帰った時、父と兄が殺されたと聞かされた。

故国再建に役立つことをと

考え、電気工学を選んだ。二年間の内戦と大虐殺で有能な成人は殺されてしまい、自分より下の世代が生残った。世界情勢、自国の立場等を理解し、判断の出来る教育の土台づくりが大切だと感じていると話された。

本田氏は一九八三年より援助活動に入った。民間、政府赤十字の三本柱の援助で、井戸堀り、自動車技術学校、保健医療、母子保健（三割が未亡人）などが行なわれてきた。自然が豊かで、病気が多く耐えられる人だけが生きられる環境の国である。

総選挙後、どうなるのか。政治も経済も不安が多い。どのような援助をしていいたら本当にカンボジアの人々のためになるのか、援助の難しさを痛感していると言う。



総会の前には上映された、カンボジアの現状を写したビデオの感想、アンタックのこと、亡くなった中田さんのことなど質疑応答も活発で、お正月カンボジアに行つてこられた寺田事務局長の実感のこもつた司会もあつて、問題の深刻さがますます印象づけられたデスカッションであつた。

1993年度日吉台地下壕保存の会

運営委員・会計監査候補者

1993年度予算案

(単位は円)

	1992年度決算	1993年度予算	備考
収入の部			
会費	455500	372000	372人×1000円
カンパ	30400	0	
利息	12516	0	
事業益	18100	0	
繰越金	704204	837592	
合計	1220720	1209592	
支出の部			
会議費	6058	20000	各種会合費
事務費	25808	40000	事務用品、封筒等
印刷費	64057	700000	会報、パンフレット等
通信費	175577	240000	会報、各種郵送代等
資料費	47000	50000	資料集、ビデオ等
謝礼	18318	80000	講師・調査費等
交通費		30000	
予備費	46310	49592	各種行事の賛同金等
合計	383128	1209592	
差引残高計	837592	0	

- 会長 鮫島 重俊
- 副会長 薄井 芳夫
- " 田辺 和男
- " 東郷 秀光
- 事務局長 寺田 貞治
- 幹事・事務局員 谷 栄
- " 加賀谷 欣之助
- " 小園 優子
- " 茂呂 秀宏
- " 谷藤 基夫
- " 亀岡 敦子
- " 馬養 貞子
- " 白鶴 邦子
- " 喜田 美登里
- " 橋本 ミチ子
- " 足立 英直
- " 岡上 そう
- " 石田 誠吾
- " 林 ちづ
- " 中沢 正子
- " 大西 章
- 会計監査 森山 高行
- " 天野 喬子
- 顧問 秋本 謙三
- " 佐藤 林平
- " 永戸 多喜雄
- " 田辺 昇

【補足説明】 収入欄の会費収入は、1992年度の会費納入者数が、372名だったので 1000円×372名=372000 とした。

支出欄の印刷費は、1992年度にパンフレットを発行する予定であったが、出来なかったため、1993年度にパンフレット代を計上した。また、交通費も新たに計上した。

総会報告を主記事とする

第二回幹事会報告

六月二日一七時半

日吉地区センター

報告事項

一、五月一八日港北区民会議

に寺田、喜田、橋本、白

鶴出席

二、五月二三日川崎市の小中

高の教員地下壕見学会、

約五〇名参加。寺田、茂

呂、谷藤が案内

三、七月二〇日ピースサイク

ルの有志が地下壕見学会

希望

議事

一、蟹ヶ谷見学会別欄参照

二、事務局体制について

(渉外・見学)寺田、小

園、谷藤、茂呂、岡上

(庶務)亀岡、馬養、橋

本

(書記)喜田、谷藤

(会報)中沢、林、大西

(調査)それぞれ手分け

して行なう

(保存)運営委員中心、

具体的には鮫島、寺田、

小園が立案する

三、本年の具体的活動につい

て

保存活動を中心にし、

県、市、慶応義塾に働き

かけていく



カンボジア

船柱威心

林 ちづ

カンボジアの総選挙がぶじ

に終り、結果はまだ判らない

が、新たな段階に入ろうとしている。今度こそ「キリング・フィールド」の時代に戻らないよう、カンボジアの人達の平和の願いが実現するようにと心から思う。

二年前、やっとアンコール・ワットの観光が許されて、かの地を訪れることができた。その時はUNTAACの話もなく比較的平穏であったが、それでも遺跡のあるシエムレア

プ市は夜は外出禁止、七時以後は送電も止っていた。警察は銃をもっていた。プノンペンのウナロム寺で日本人僧洪井修師にお会いした。ポル・ポト政権下で、寺は荒れ果て、僧侶や信徒は殺されてしまった。骨の山の間

でお経を読み、三年前からこの寺に住まれるようになったとのこと。今は学校を開いていられる。茜色の僧衣が精悍な風貌によく似合い、こうい

う日本人もいるのだと、川風の吹込む寺院でお話を聞いていて感動を覚えた。訪れた孤児院では戦乱で親を失った子供たちがおどりをみせてくれた。衣類も、文房具も、足りなかつたので、私たちはノートや、えんぴつをおいて帰ってきた。

教育を受けるべき年齢の子供たちが、大勢街でものこいをしていた。孤児院に収容されるのは本当に運のいい方であった。

テレビの報道でカンボジアをみると、平和を願いながらもなお内戦がやまず、ポル・ポト派は武器を放さず政権軍も同様である。あの子供たちの笑顔が本当に心からのものになるために、豊かな自然に恵まれたあの国の人たちの荒れた心や体をいやすのに、私たちは何をしたらいいのか、考えてしまうのである。

お知らせ

★蟹ヶ谷の地下壕見学会

日時 七月一八日(日)

午後一時三〇分集合

集合場所 川崎市高津区蟹ヶ

谷 東急バス蟹ヶ谷バス停

会費 五百円

持物 長靴、懐中電燈、

行き方 地図参照

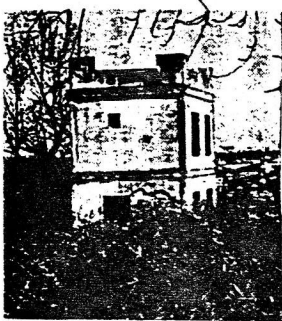
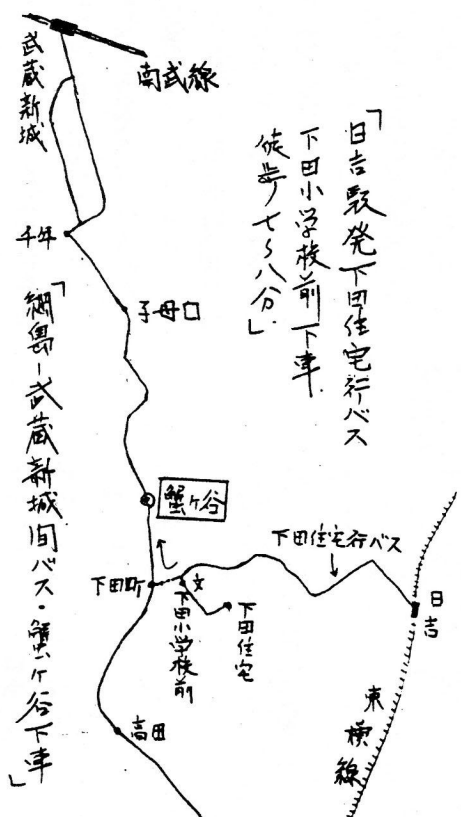
①東横線綱島駅→南武線新城

駅を往復のバスに乗る

②東横線日吉駅より東急バス

下田住宅行にて下田小学校前

下車歩く



蟹ヶ谷の通信隊の構築物 (監視所の跡?)



★「日吉台地下壕」のパンフレットをご希望のかたは、寺田までお申込みください。送料別、四五〇円(会員四〇〇円)です。

月光の夏

監督：神山 征二郎 / 企画・原作・脚本：毛利 恒之 / 小説「月光の夏」文芸社刊
 出演：若村 麻由美・田中実・水野 真子
 渡辺 美佐子・石野 真子・小林 哲子
 田村 高廣(特別出演)・山本 圭・仲代 達矢
 製作：株式会社「仕事」製作協力：映画「月光の夏」を支援する会
 協力：マルトグループ・特撮会・少飛会・甲飛会・社団法人白鷺遊楽会
 配給：ラルドエース / 日本(テレビ映画) / 映画「月光の夏」全国配給委員会

★映画「月光の夏」の上映が六月一二日から始まります。胸をうつ作品です。ぜひ誘いあわせてご観賞ください。横浜オスカ、丸の内シヤンゼリゼ等で上映されます。

★「歩く731部隊展」七月六〜十一日 新宿区民ギャラリー
 七月十三〜十七日 渋谷・山手教会
 七月二〇〜二五日 元住吉・川崎平和館

お願い
 会費未納の方は、至急ご送金ください。
 二年間ご入金のない方は、会報の送付を中止させていただきます。